

## 平成 30 年度 第 4 回白馬高等学校学校運営協議会 議事録（概要）

1 日 時 平成 31 年（2019 年）2 月 18 日（月）午前 10 時～12 時 15 分

2 場 所 長野県白馬高等学校会議室

3 参加者 9 名（欠席 1 名：横澤委員）  
この他、長野県教育委員会事務局高校教育課 1 名  
白馬・小谷両村関係者 2 名  
白馬高等学校職員 3 名



### 4 次 第

(1) 開会の言葉

(2) 長野県教育委員会あいさつ（宮澤高校教育課高校改革推進係主任指導主事）

(3) 白馬高等学校長あいさつ（臼井校長）

(4) 報告事項

① 白馬高等学校より（臼井校長）

- ・平成 30 年度国際観光科の取組について
- ・平成 30 年度匿名性を担保した授業評価及び学校評価の結果について
- ・平成 30 年度学校経営方針における重点目標についての実施状況について
- ・平成 30 年度卒業予定者進路状況等について
- ・新生白馬高校 3 年間の歩みについて（1 期生の学習指導・進路指導）

② 白馬山麓事務組合より（松澤局長）

- ・白馬高校支援事業 3 年間の取組について

(5) 意見交換

【 新生白馬高校の 3 年間と今後の展望について 】

#### <岸委員>

- 国際観光科、学校運営協議会が設置されて 3 年になるが、素晴らしい成果を上げていることに  
対し、教育委員会、両村行政の関係者に御礼申し上げたい。白馬高校では、普通科も含め、白馬  
の自然の中で、白馬ならではの特徴ある教育が実践されている。その中で、卒業後大学に進学し、  
さらに白馬に戻りたいという生徒がいること、また、成果が全校生徒の学力の向上に表れている  
ことも素晴らしいと思う。学校に敬意を表したい。
- 学校評価アンケートの結果を見ると、授業内容や学習活動の内容について不満に思っている生  
徒が若干いる。校長先生の報告にもあったが、学校の先生方も課題として認識されているよう  
なので、精査と分析、改善をお願いしたい。

#### <武田委員>

- 大学を卒業しても、コミュニケーション能力がないと社会の中で埋もれてしまう。国際観光科  
では、相手が何を待っているのか、その相手にどんなサービスをしたら良いのかという大事なこ  
とを生徒が学んでいる。一方通行の学びではなく、対話的にお互いが高められる学習にさらに磨  
きをかけ、相手の気持ちを引き出すところにまで踏み込んだ実のある学びとなることを期待する。
- 大町市美麻地区から白馬高校への生徒の通学の利便性向上のために、冬期間だけでも長野～白  
馬線の特急バスの増便ができると良いと考えるが…。

#### <下川委員>

- 村としてもバス会社等に要望していききたいところである。

#### <松本委員>

- 地域交通として本当に必要であれば、将来的にも考えていかなければいけないと考える。行政  
としても、そんな話があるということに関係方面に伝えていかなければいけないと思う。
- 学校評価の生徒の指摘については、私も、しっかり学校で考えていただきたいと思う。

#### <臼井委員>

- 学校評価の結果については、反省職員会等でこれから分析する。3年間の反省の視点からも校内的なまとめを行い、来年度の第1回学校運営協議会で報告したい。

#### <岸委員>

- 素晴らしい別冊資料を作られた「カリキュラムコーディネーター」の位置づけは。

#### <臼井委員>

- 常勤ではないが教務室に常駐している。学校全体を見ることができる立場からこのような資料を作ってもらい、学校教育の現在地を知ることができたと思っている。

#### <岸委員>

- 国際交流で海外から多くの来校者があるが、学校からの招きか、相手からのオファーか。

#### <臼井委員>

- 白馬・小谷に教育旅行で来る海外高校生の旅行プランの多くに白馬高校を入れていただいております。学校からの直接のオファーでの来校ではない。その点、非常に幸せな環境にあると思っている。

#### <岸委員>

- 県内他地区からの入寮生もどんどん増えている。これは、白馬・小谷両村の活性化だけではなく、長野県全体の活性化につながっているとも言えるのではないかと。これも当初目標としたものの成果として喜ばしく思うが、いかがか。

#### <下川委員>

- 3月に卒業する国際観光科1期生のうち寮生は15名である。その指導に一生懸命取り組んでいただいた学校にあらためて感謝したい。現在、平成31年度入学生の募集をかけているところだが、今後は寮の定員を決める必要もあるのではないかと感じている。入寮者数の増加に加え、寮生の生活指導上の課題や村職員の負担といった課題もある。国際観光科を設置し3年、ここまで両村としても手探りで進めてきた部分もある。さらに継続していくためには、問題を整理しながら持続可能な支援のあり方を考えていく必要もあると考える。県にも協力をお願いしたい。

#### <県教育委員会>

- 寮の生活指導面の課題については、両村、学校とともに、県も一緒になって考えてまいりたい。

#### <松本委員>

- 白馬高校への両村による全面的な支援を決めた当時は、寮での教育について、寮生の生活指導までは想定していなかった。入寮生数についても現在ほどの規模になるとは考えてもいなかった。県内他地区からの受入れについても、さほどは想定していなかった。寮の施設整備や人件費は村の負担であるが、年間にかかる経費をみると、寮生の食費や光熱費についても大きな負担をしている。この点は、運営的な面で今後しっかり考えていく必要がある。このように新たに顕在化した課題もあるが、支援の継続のため、今後、持続可能なあり方を検討していくべきである。

#### <白戸会長>

- 教育の成果が目に見えて出てくるには、10年から15年は必要だと考える。両村の支援を長く継続させるための方法の研究を含めて、こうした課題は、皆で考えていく必要がある。
- 白馬高校が地域に根ざした教育を実践していて、その成果が地元はどう還ってくるかが大事だと考える。将来的に白馬に住み、働くということは大きな可能性であり、卒業後も、村の魅力に引き付けておくためには、間髪入れず行動を起こす必要がある。卒業した生徒が白馬にかかわり続けられる仕組み作りを検討していきたい。

#### <宮嶋委員>

- 寮生に対してどんな部分で生活面の指導や支援が必要なのか詳しくは分からないが、県外生等にとって寮生活が白馬高校で学ぶための基本である以上、白馬に来た目的をもう一度生徒自身にきちんと考えさせるべきで、そのことが、最終的に生徒自身のためになると感じる。

#### <横川委員>

○ 白馬高校がこの3年間でこんなにも多くのボランティア活動を行っていることや、新生白馬高校の特色ある学習内容に感動した。高校生ホテル、デュアル実習やさまざまなボランティア活動など、生徒が主体的に参加できる場面が多くなり、生徒達はとても良い経験をしていると思う。

#### <加藤委員>

○ 小谷中学校から白馬高校への志願者数がかかなり増えた。要因を分析すると、一つは白馬高校の取組みと小谷中学校の取組みを同一歩調で進めようと考えたことが挙げられる。二つ目は、普通科に多様性が求められていることが挙げられる。今回、白馬高校に学力上位生も含め多様な生徒が志願した。多様な対応をお願いするという面で、生徒個々の適性に応じた支援やカリキュラム編成について、中学校も一緒に考えさせていただければと思っている。

○ 小谷中学校では、生活ノートや日記をやめ、スケジュール手帳を導入し、自分がどういう日程で一日の学校生活を送るのか、そのプランを立てる力をつけさせたいと考えている。こうした生徒の主体性を育む取組みの面でも高校との連携を進めていきたい。

#### (6) 協議事項

- ① 平成31年度長野県白馬高等学校経営方針(案)について
- ② 平成31年度学校運営協議会の活動について

#### <臼井委員>

○ 平成31年度学校経営方針については、学校教育目標、目指す学校像、育成する生徒像、中長期的な重点目標は大きくは変えない。その上で、国際観光科が設置され3年経過したことを一つの区切りとして、次の3年間の計画を立てたいと考えている。新学習指導要領施行も念頭に、国際観光科のブラッシュアップはもちろんのこと、普通科の魅力づくりをしっかりと行う。その上で、積極的に白馬高校を選んでもらえる学校づくりを次の3年間で考えていきたい。また、国際観光科の取組みを普通科へ広げ、普通科の特色である環境教育を国際観光科にも波及させ、成果を全県に発信することも考えたい。

○ 二つ目は、多様な教育活動の整理が必要だと思っている。教育活動の目的、目標や評価方法も含めた整理整頓が課題である。

○ 三つ目は、出口の部分。例えば他県の大学に進学し地域政策について学び、自分の地元で学びを活かしてもいいし、できれば白馬・小谷に戻り、例えば役場、農協などで、地域を引っ張っていけるリーダーになれたら良いと思う。それとともに、先ほど会長が言われたIターン、Uターンの促進ができるような高校3年間の仕込み、卒業後の仕組みづくりについて研究していきたい。これらを次の3年間の柱と考えているが、具体的には来年度の第1回学校運営協議会で提案、審議していただきたいと考える。

#### ③ その他

- ・平成30年度の学校運営協議会について(活動のまとめ)
- ・横川委員退任あいさつ

#### <白戸会長>

○ 3年目の終わりにあたり本日もレベルの高い協議をいただいた。委員の皆様のおかげでこの運営協議会では実のある議論ができていると考える。来年度もこうした形で白馬高校のさらなる活性化につながる議論を展開していきたい。

#### (7) その他

○ 来年度の第1回学校運営協議会は5月に開催の予定。

#### (8) 閉会の言葉